

第 1 2 回石西礁湖自然再生協議会 議事概要

日 時：平成 22 年 2 月 19 日（金） 13:30～17:00

場 所：沖縄県八重山合同庁舎（旧八重山支庁）

参加者：委 員：44 名（個人 18、団体・法人 10、行政 12） 協議会事務局除く

傍聴者：6 名（うち報道関係：2 社）

事務局：14 名（環境省/6 名、沖縄総合事務局/1 名、その他/7 名）

計 64 名（ 団体・法人、行政については、出席機関数とする。）

議 題：

- (1) 石西礁湖周辺のサンゴ礁の現状について
- (2) 石西礁湖サンゴ礁基金について
- (3) 各委員の活動について
 - 「この 1 年でやったことアンケート」について
 - 生活・利用に関する検討部会について
 - 地域委員会（仮称）について
 - 自然再生連絡会議（西日本）について
 - 自然再生専門家会議現地調査について
 - サンゴ礁生態系保全行動計画（案）について
- (4) 今後の協議会の進め方について
- (5) その他

概 要：

(0) はじめに

石西礁湖サンゴ礁基金への寄付

八重山高校 3 年 6 組のみなさんから八重高祭でフリーマーケットを開いて集めたお金をサンゴ礁基金に寄付したいとの申し出をいただき、八重高祭での取組について発表いただいた。

その後、土屋会長へ寄付が手渡され、事務局である環境省よりお礼のエコバッグがプレゼントされた。八重山高校の生徒は、石西礁湖の現状を知っていただくため、議題（ 1 ）の石西礁湖周辺のサンゴ礁の現状についての説明まで聞いていただくこととなった。

新規委員の承認

今回、個人参加として飯泉佳子氏（（独）国際農林水産業研究センター）、栗村知己氏（T シャツアトリエなちゅらる宇宙人）、団体参加として文部科学省科学研究費補助金（新学術領域研究）サンゴ礁学が新規委員として承認された。以前委員として登録されていた八重山ダイビング協会は委員の継続手続き漏れがあったようだが今回改めて、委員として登録して欲しい連絡があり、改めて委員として登録された。

(1) 石西礁湖周辺のサンゴ礁の現状について

環境省から、石西礁湖自然再生全体構想で掲げた自然再生の目標を踏まえ、現在の石西礁湖の現状について報告が行われた。主な内容は以下のとおりである。

- ・ 全体構想における短期目標は、達成期間が10年となっており、すでに達成期間の1/4である2年7ヶ月が経過しているが、石西礁湖のサンゴ礁はどうなっているか紹介する。
- ・ 協議会活動設立前の平成12～15年と協議会活動が盛んになった平成16～20年を比較すると、サンゴ被度、ミドリイシの最大径及び新規加入は減少している。
- ・ 石西礁湖で長年サンゴの研究を続けている野島委員から、石西礁湖のサンゴについて平成9（1997）年のころと平成21（2009）年のころに撮影したサンゴ礁の様子が報告された。
- ・ まとめとして、石西礁湖全体としては、平成19年の大規模白化や平成20年頃からのオニヒトデ大発生により、サンゴの状態は厳しいものであると報告された。
- ・ 全体構想の短期目標について、赤土対策、下水道普及、クリアランス船の減少により八重山周辺の海への環境負荷は減少している。
- ・ 環境省のサンゴ群集修復事業においても、移植したサンゴの成長が確認されている。
- ・ 目標達成に向けて、各委員による活動は進んでいる。

(2) 石西礁湖サンゴ礁基金について

石西礁湖サンゴ礁基金については、これまでの資金メカニズムグループの活動報告や新たな活動助成規程の提案など、運営委員会代表の恵委員（美ら島流域経営・赤土流出抑制システム研究会）から説明があった。

承認事項は以下のとおりであり、出席委員から了承された。今後は、石西礁湖サンゴ礁基金による助成対象事業を募集することとなった。

石西礁湖サンゴ礁基金事務局の選定

「石西礁湖自然再生協議会寄付金等細則」に基づき、基金事務局を設け、基金管理者として石西礁湖自然再生協議会会長代理である吉田稔氏に、基金事務担当として資金メカニズムグループの鷲尾雅久氏に事務作業をお願いすることとなった。

石西礁湖サンゴ礁基金事務取扱規程の改正

基金事務を円滑に行うため、「第5条 石西礁湖自然再生協議会の承認を受けた予算額の範囲内での基金運営費及び広報費の支出の権限は、石西礁湖サンゴ礁基金運営委員会代表に委任する。（ただし、予定金額1万円以下のものに限る）」を追加することが承認された。

オンライン寄付サイト Give One への登録

NHKの「難問解決！ご近所の底力」で、オニヒトデ対策の資金集めの方法として石西礁湖サンゴ礁基金を取り上げたいとの提案があった際、Give One を紹介された経緯があり、運営委員会としては、広く寄付を集めるため、Give One へ登録することとした。ただし、寄付者の意思で寄付額、寄付先が選べる、寄付金総額の10.5%（+クレジットカード手数料4.5%）の手数料が発生するなどの条件もあることも報告された。

2009 年度収支見積もり、 2010 年度暫定予算

2009 年度は、2010 年 1 月現在 597,624 円の寄付が寄せられており、事務費として 47,756 円を支出した。2009 年度は 800,000 円を見込んでいる。

2010 年度暫定予算としては、寄付額 100 万円を想定した場合、事務局運営費 10 万円、広報費（リーフレット代）10 万円、委員への活動助成費 80 万円を組んでいる。

石西礁湖サンゴ礁基金助成

石西礁湖サンゴ礁基金の活動助成希望者は、「石西礁湖サンゴ礁基金活動助成規程」に定められた様式に沿った申請書を提出する必要がある。

平成 22 年度は、協議会の開催状況を踏まえて、2 度の募集を予定しており、助成費の予算は 80 万円程度（Give One 寄付は一部用途指定あり）を想定している。

サンゴサポーターの委嘱

現在、加藤登紀子さんに参加いただいております。今後もサポーターを増やしていきたいと考えています。詳細は、基金 HP(<http://www.strata.jp/sangokikin/index.html>)を見ていただきたい。

(3) 各委員の活動について

「この 1 年でやったことアンケート」について

メーリングリストで委員にお伺いした「この 1 年でやったことアンケート」の結果について、事務局より報告された。

生活・利用に関する検討部会について

本協議会では生活・利用に関する検討部会が設置されており、昨年 10 月に開催された第 6 回検討部会について報告された。

議題 1：漁業者 - 船社間の協定をめざした旅客船の航行箇所のルール化

議題 2：海域利用全般のルールについて（船社、観光、ダイビング、全般）

議題 3：安全・安心な航路の検討状況（住民説明会資料抜粋）

地域委員会（仮称）について

前回の協議会で、吉田会長代理から提案のあった「地域委員会（仮称）」の活動内容について報告された。

地域委員会（仮称）は、石西礁湖周辺に地元の人達が、石西礁湖のサンゴを自然再生していくことに対して、自分たちに何が出来るか、どう関わっていけるか等について話しあって、共通認識や連携感をつくり、実際の行動に繋がる体制・ネットワークづくりを図るため、月 1 回（第 3 水曜日）に会合を設けている（案内は、メーリングリストにて行っている）。現在、地元住民各々がどの様なことを行えばよいかを具体的に示した「十つの行動」を作ろうとしている。

自然再生連絡会議（西日本）について

自然再生連絡会議（西日本）とは、西日本各地の自然再生協議会の構成員が情報交換と先進事例に関する現地視察を行い、各協議会における取組を推進させることを目的として開催される会議で、石西礁湖自然再生協議会からは吉田会長代理と事務局担当の佐藤大樹が参加した。

開催地は、熊本県熊本市及び阿蘇山周辺で、平成 21 年 12 月 1 日～2 日の日程で行われた。

< 情報交換 >

- ・ 各協議会とも活動資金確保に苦勞していることが報告されていた。
- ・ 阿蘇草原再生協議会の「毎年、委員の取組みを提出してもらい優秀な取組みは協議会から奨励賞を与える」という取組みが注目されていた。
- ・ サンゴ礁生態系の再生を目指す竜串（高知県）でも、陸域からの負荷の軽減は課題となっていた。

自然再生専門家会議現地調査について

自然再生専門家会議は各地の自然再生事業を行おうとする者から、自然再生事業実施計画が提出されたとき、主務大臣が提出された実施計画に関し意見を伺う会議である。その専門家会議の委員が平成 21 年 10 月 29 日～30 日に、自然再生専門家会議の委員が八重山を訪れた。< 日程 >

平成 21 年 10 月 29 日	グラスボートによるサンゴの視察
平成 21 年 10 月 30 日	砂川拓也委員の圃場を見学（土砂流出対策、地域振興等） 名蔵アンパル干潟（ラムサール条約登録湿地）視察 意見交換会

< 専門家会議委員より頂いた意見 >

1. 海域環境だけではなく、赤土等の周辺環境のモニタリングも必要。
2. 海水温上などグローバルで長期的な視野で取り組まなければならない課題と、陸域対策等比較的すぐに取組める課題がある。取りかかりやすいところから始めるべき。
3. 観光業・農業を含めた地域全体で石西礁湖の保全を考えていくことが大切。
4. 石西礁湖の取組においては、地域とともに働きかけていこうとしているところがよい。

サンゴ礁生態系保全行動計画（案）について

環境省で検討されている「サンゴ礁生態系保全行動計画（案）の概要」について、その内容が報告された。

- ・ 目標：サンゴ礁生態系の保全・再生及び持続可能な利用を促進し、地域社会の持続可能な発展を図る
- ・ 対象地域：サンゴ群集が分布する地域（藻場、干潟、海浜、マングローブ林等も含む）
- ・ 基本方針： サンゴ礁生態系保全調和型社会の形成、 連携と協働、 科学的認識と予防的・順応的態度
- ・ 基本方針： 保全の基礎となる取組、 保全、 持続可能な利用

(4) 今後の協議会の進め方について

石西礁湖自然再生協議会の今後のスケジュールについて、事務局から説明があった。

来年度は、春季に運営委員会を開催し、基金による助成活動を検討し、同季に協議会を開催し、その活動を承認する予定であり、協議会自体は2回開催予定であることが説明された。

(5) その他

事務局からのお知らせとして、吉田会長代理が会長を務めている八重山サンゴ礁保全協議会からリユースカップをお借りしたことについて説明があった。

(閉会)

以 上